

10月の生活表

2022年 10月

聖マリア幼稚園

年主題：つながって ～今、わたしを生きる～

月主題：みんなちがってみんないい

・保育日数（20日）

月目標：＜3歳児＞・神様からいただいている一人ひとりの賜物が大切にされる。

・好きなことを通して気持ちの合う友だちと出会い、心も体も伸びやかに過ごす。

・空や風、虫など身近な事柄を通して季節の移り変わりを感じる。

（保）さまざまな遊びの中で、試行錯誤してできるように、関わりや環境を工夫する。

＜4・5歳児＞・礼拝の時を大切に思い、聖書の話（神さまのみこころ）に心動かして聞く

・友だちと一緒にいることや、友だちとイメージを共有して遊ぶことを愉快だと感じる。

・一人一人が自分らしさを持って、今を楽しむ。

（保）保育者自身が、自然界の変化や面白さを五感で感じていく。



今年もあと3ヶ月を残すのみとなりました。何と早いことでしょうか。夏に戻りつも少しづつ秋が深まっていく。遠足の日の空の雲をみて「秋だ!」と思って写した写真の1枚です。今月の主題は、認めなければならないとされる目標で、今の時代にやっとそんな思いが少しずつ通じ、声を大きくして伝えていくことが許されるようになったように思います。神様から頂いた「命」、生まれた環境・両親が同じでも「個々」なのです。親になったら、まずは健康で「こんな風に育って欲しい」「こんな風になってほしい」とさまざまな願いや期待を抱き、「こんな風にしよう」と様々な機会を与えようとしています。小さい頃はその中に子ども自身の意思はほとんどありませんね。しかしその成長と共に、子どもは周りから学んでいくことが増え良くも悪くも影響を受け、親の思いから離れていく場合だってあるでしょう。その時、ご両親はどのように対応されるのでしょうか。これから皆さんが直面されていくことになるでしょう。個々を認めていくことの中には、その子の何を大切にしていけるのか。今「主体性」という言葉が幼児教育界に浸透し始めています。勿論大切です。しかし私たちが人との繋がりある中で生きている以上、気持ちよく過ごすことはそれ以上に大切にされるべきことでしょうか。しっかり自分の意見を言いつつ、その状況を判断し、受け入れていく姿勢、それは取りも直さず「主体性」を重んじるからこそ、この初めて過ごす幼稚園という集団で学んで欲しいと言うことです。個々を認めていくことは、その人が身体中で表現することに添うことでもありますが、一方通行ではありません。お互いを受け入れてこそ成り立つ社会生活ですね。そんなことを学び始める大切な場がこの幼稚園でもあります。子どもたちにその芽生えを学んでもらうべく、私たちは個々に添ってお手伝いさせて頂きたいと考えています。たとえ360度に向いている個であっても、その中心に向き合う日々が増えますようにと願います。2学期、新しい経験を共に取り組みますように。

《チャブレンコーナー》

月聖句：その人は豊かに実を結ぶ。（ヨハネによる福音書 15：5）

お芋ほり遠足に行ってきました。今年も、たくさんのお芋を収穫することができました。ここまでお世話下さった農園の方々のご苦勞を思います。感謝です。私たちが農園に行くときには、お芋の葉っぱはきれいに整理されて、お芋の目印程度に葉っぱが残っています。きっと、農園の方が整理されるまでは、畑全体を覆うほどの葉っぱが広がっていたのでしょう。これだけのたくさんの葉っぱがあるからこそ、大きくて、おいしいお芋ができるのですね。葉っぱで太陽の恵みを受け、そこでできた栄養を、茎を通してお芋に運び、それをいっぱい貯めてお芋が大きくなります。豊かな恵みが、葉っぱ、茎、芋とつながっていることを思います。

今月の主題聖句は、短く切り取られていますので、それだけでは分かりませんが、実は「ぶどうの木」のたとえ話となっています。次のような言葉で始まります。「私はまことのぶどうの木、私の父は農夫である。...わたしにつながっていなさい。」イエス様ご自身がぶどうの木にたとえ、信仰によってイエス様とつながっていることによって、私たちの心が大きく育っていくことを教えてくれています。見えないうぶどうの枝が私たちの心につながっています。それはぐんぐん伸びて、イエス様につながっています。イエス様は天国で、大きな葉っぱを広げて、私たちの心に栄養を届けてくださっているのでしょう。私たちは、誰かとのつながりの中で生きています。子どもたちは、大人からのお世話がないと生きていけません。衣食住だけでなく、優しく温かい心のつながりも必要不可欠です。子どもたちはきっと、大人との強いつながりを感じながら、安心して成長しているのでしょう。

おたんじょうび おめでとうございます

<生活指導>

☆秋の自然を見つけてみましょう。

- ・ 木の葉・木の実・草花・虫・果物・空・雲・風etc.身の回りの自然に目を向け、季節の変化に気づき、自然の不思議について考え、自ら関わる事で親しみを持ちましょう。（親子で自然物を使って、何かいいもの作ってみませんか）

☆運動会を機会に身体全体の様々な運動に対し、取り組む意欲を養い、子どもの発達を注視し、成長を促してみましょう。

- ・ 運動会はひとつの機会にすぎません。日々の機会がどこにあるのか、また機会をどのように捉えてみるのか、基本的な体の動きを確認しながら、親子で楽しんでみましょう。
- ・ 気候の良い時に、保護者の協力のもと、戸外で身体を動かして遊びましょう。
例えば、ボールころがし・キャッチボール・ボールつき・バトミントン・大縄跳び・縄跳び・ケンパ・鉄棒・フットサルetc. ゆったりとした時間を作り、お父さんお母さんの幼児期を思い出し、近くの公園で一緒に遊んでみませんか。
- ・ 身体を動かす基本動作（跳ぶ・走る・渡る（側溝の上等も）跨ぐ・潜る・でんぐり返り（前転と後転）・転がる（横転）・背伸びする・線の上をつま先歩きする・両足跳び・けんけん・ギャロップ・スキップetc. 家の内外で沢山その機会を捉えてみましょう。
- ・ 手先の動作（巧緻性＝器用さ）もとても大切です。

クレヨンでしっかり色が塗れる（はみ出さずに、白い所が無くなるまで、しっかり色を塗る事ができるetc.クレヨンを塗る力加減で鉛筆や消しゴムが上手に使えるようになります。）

はさみを使う（どれだけ線に沿って切れますか。どちらから切り始めていますか。反対の手はどのように添えていますかetc.）

じゃんけん（指1本ずつがしっかり動かせますか？）が出来ますか？

（勝ち負けの意味がわかりますか。）

お箸が使えますか（お箸・スプーン・フォークの使い分けが出来ますか？）お箸もスプーンも正しい持ち方で＝花組でも十分に使いこなしている園児もいます。

勿論個人差はありますが、例えば、エジソン箸よりも、ことばを添えて根気よく方法を教えて下さる方がよいでしょう。

☆ 何事にも、「やってみなさい」とみせるのではなく「こうしてごらん」と同じ方向から手を持ったり、添えながら教えてあげて下さい。

☆ 2学期は各々の学年で子どもが個人差を持ちながらも各々に大きく自立しようとする大切な時です。

- ・ 保護者は、自律＝自立の意味（自らやってみようとする意欲が大切）をしっかりと把握しましょう。
- ・ 愛情を注ぐことと言いなりになることとは意味が違います。（親の手を出さない我慢が大切です）
- ・ 子供が自立するという事の意味はいっぱいあります。「しっかりしてほしい」といいつつ……。口と一緒に手を動かし、助けてしまっていないか。
- ・ 大人もしっかり返事や受け答えをしてみましょう。大人の意見を押し付けたり、何も気にせず通りすぎない様に。

（大人のその時の気分や時間の無さで知らずに通り過ぎていませんか）

- ・ 子どものお話にゆっくり耳を傾け、同じ方向を向いて話を深めてみましょう。
- ・ 「ハイ」の返事が出ません。呼ばれたら返事をし自分の存在を伝えられるように。
- ・ ご挨拶がスムーズに口から出てきません。良い癖になるように。
- ・ 相づちが打てません。自分の意志が十分に表現できますように。
- ・ 大人が大切な話をしている時には、子どもが我慢する事も必要です。
- ・ 様々な場面展開に対応出来るように、大人は言葉掛けに工夫してみましょう。

☆ 社会（国際・日本・都道府県＝郷里・地域など）の事象に触れてみましょう。

- ・ 社会事象から、世界〇〇〇など様々な報道がされています。地球儀や地図等を真ん中に、顔を寄せ合って自分の存在地点（国、他国）を確認してみましょう。
- ・ 大人は子ども達と話題を共有することにより、子どもに合わせて解りやすく説明してあげることが必要です。絵本・新聞・テレビ等を通して、ちょっと時間を作ってみませんか。
- ・ 身近な地域の人たちとの接触も大切です。町内の行事等にも参加し交わってみましょう。

☆ 体調を気遣いましょう。

- ・ 昼夜の気温の差に対応できるよう、こまめに衣服の調整しましょう。
（ことばをかけながら、本人にも気づかせましょう。）
- ・ 上着は保護者が持ち帰らず子どもにお預け下さい。（自分のものとして処理できる様に）

<クラス便り：各担任より>

<花組>

台風が頻発し、毎日変わる天気予報にヒヤヒヤしていた今日この頃...でありましたが、『お芋堀り遠足』をとっても楽しみにしていた花組さんたち、全員出席！みんなで『お芋堀り遠足』に行くことが出来て本当に良かったです。汗をかきかき懸命に掘ったお芋さん！スーパーで袋に詰められたお芋とは違うね！土の中からご自分で、大好きなお父さん・お母さん・妹ちゃん・弟ちゃんと懸命にスコップで！手で！掘った感触・感覚！達成感！秋の恵みのお味はきっと一味も二味も違ったのではないのでしょうか。お外でいただく「おにぎり」も、また特別に美味しくて、お母さんにお好みの「おにぎり」をリクエストして、それを作って貰えて...一緒に食べて、とても幸せな時間でありました。ご参加下さいました保護者の皆様、本当にありがとうございました。そして、お芋さんを大切に育てて下さった農園の方々にも感謝です。

10月の月主題【みんなちがってみんないい】神様からいただいた一人ひとりの賜物が大切にされ、一人ひとりの違いが認められる。そして、受け入れて貰い伸び伸びと過ごせる。幼稚園が、クラスが、先生やお友だちが、そんな場所の存在であるように。目の前の子どもたちの今の姿をしっかりと受け止めていきたいと思います。運動会の練習がスタートし、その練習には子どもたちに身に着けて欲しいあんなことやこんなことが沢山散りばめられています。この経験が子どもたちにとって大きな経験となり糧となることを確信しています。赤白帽子チームに分かれて（一緒のチームのお友だちを意識して思いやって）順番に並んで（ご自分は誰の前？誰がご自分の後ろ？とお友だちがいてご自分の順番があるということ、）競技を行う（楽しさや競争ということへのそれぞれの意識がそれぞれの達成感に繋がって）。とにかく可愛い花組の子どもたち、運動会でもきっとその可愛さに目を細めてしまいそうですが、「あっ！並べている〜」「ほ〜お友だちのこと考えてる！」「すごく！頑張って、必死に早く走ってる！」等々、色々な目で子どもたちの姿に注目していただけたら嬉しいです。お友だちと比べるのではなく、【みんなちがってみんないい】をお忘れなく。

一日の中で、夏の様な時間・秋を感じる時間、と気温や湿度の変化が大きいことで、子どもたちの小さな身体は疲れやすかったり、体調を崩しがちな季節の変わり目です。子どもたちの体調の変化を見逃すことの無いように、体温（検温）だけでなく、食欲、便や尿の状態、顔色やお肌の状態、睡眠時間（午睡の有無）等々、気になられることがありましたらお知らせいただきますようお願いいたします。

ご機嫌が悪いのは、ただの我儘？何か理由があるよね。残り3か月となった2022年！二学期を最後まで笑顔でしっかりと過ごせるように、子どもたちが心身共に健やかに！ご家庭と幼稚園とが連携して二人三脚で子どもたちの今の姿を守ってゆきましょう。

<赤組>

「まだまだ暑い、」、「明日こそは涼しい、！？」と、残暑の厳しさと戦いながら、秋の涼しさを期待して待っていた9月の最初。気がつけば段々と夜風が冷たく、朝晩は気持ちの良い気候となりました。また、セミとコオロギの鳴き声がコラボレーションしていて驚いていた日が懐かしいくらい今ではコオロギやスズムシなど、秋の虫たちが大合唱しており、すっかり「秋」を感じるようになりました。

聖マリア幼稚園では「運動の秋」が始まりました。来週末に開催される運動会の練習に子ども達は元気に楽しく励んでいます。まずは背の順番に並びました。並ぶ際、緑組さんを見合いつこして「〇〇ちゃんの方が大きいと思う」と身長の高低差を見た目で教え合い、自分たちが背の順番で並んだ時に隣の友達より自分が高いのか低いのか覚え、背の順番を理解することが出来ました。先日、クラスだよりで少し触れました通り、今年の赤組さんの競技テーマは「ケーキ」です。子ども達がパティシエになり、大きなデコレーションケーキを5人で作り上げる競技です。よーい、どん！の合図でスタートし、まずはパティシエに変身！そこから平均台を越えサイコロが登場し、自分の乗せるフルーツを決めます。出た目のフルーツを選びに出掛け、鞆に入れて落とさないようにケーキまで運び、トッピング。そしてスタート地点まで走って帰ってゴールです。5人全員がトッピングできたら、最後に全員でロウソクをつけ「みんな5歳おめでとう！」とお祝い、と言ったような内容になっています。今年の赤組さんは5人の女の子。競走するには少し厳しいところがあるかと悩み、それならば5人で協力して何かを作り上げるのはどうだろう？と。そして一人ずつがスタートするという競技にしました。赤組さんの得意な遊びの一つがおままごとです。園庭では自分たちで砂や水、植物などを工夫して料理を作ってご馳走してくれ、室内ではレストランを開いて招待してくれます。また粘土でも食べ物屋さんになって注文を取ってくれました。そんなお料理好きな姿から今回の競技へ繋がりました。最初に子どもたちにはケーキを作ろう！と伝え、トッピングするのなら何がいいかと尋ねました。すると「イチゴ」「もも」「マンゴー」「ブルーベリー」「キウイ」などたくさんのフルーツが出てきましたが「これだけ多かったら乗り切らないんじゃない？」と一人の子が気づいたことから子ども達と話し合っってトッピングの内容を絞っていきました。「イチゴは絶対いる！」などとみんなで話し合いながら無事4種類のフルーツが決まり、それらを「新聞紙」で作っていきます。まずは新聞紙を知るために触れ、ちぎり、丸めて遊んでから取り組みました。昨年から絵の具を使う際など机に敷いて使用したり何かと登場する場面のある新聞紙ですが「新聞紙」という名称を知らないと答える子がほとんどでした。少し衝撃でしたが、もしかして、見たことはあるけれど名称を知らないということがあるのではないかと感じました。子どもが

「これをこうして下さい」と言っているときは「何をどうして欲しいのか」を聞くようにしていますが、これからも続け、私自身も「こそあど言葉」をつい使っていたことを反省し、子ども達の頭の辞書に言葉を刻んであげたいと思います。

大きなケーキをデコレーションするにはたくさんのフルーツが必要でパティシエになって朝からフルーツ作りをするぞ！と意気込んでいます。朝早くに登園するためには早寝早起きをしなくてはいけない、そのためには自分で寝るまでの時間をどう過ごすのか考え、したいことをずっとしていたのでは体調も良くならないとお話を聞くと、その次の登園から驚くほど早く登園し、子ども達の気持ちの変化が見受けられました。規則正しい睡眠であるからこそ、心も体もすっきりして調子の良い一日を過ごしていた為改めて規則正しい生活は大事なことであると感じました。朝から赤組さんがフルーツ作りをしていると、緑組さんが「何作ってるの？」「手伝ってあげるで」とどんどん集まってくれます。次第に「こっち持ってな」など赤組緑組で話しながら工夫して作ったりなんだか楽しそうな笑い声が聞こえてきたりして「たまらん楽しいわ！」と満面の笑みで一人の赤組さんが言ってくれました。このように、「運動会」という行事一つでも競技を行うだけでなく、競技決定までの話し合いの過程、自分たちで作り上げる楽しさ、その中での異年齢での関わり、そして生活習慣など様々な要素が詰まっているからこそ行事が終わるたびに子ども達は成長していくのだと感じます。私も常日頃からたくさんアンテナを張り、子ども達に共感し、援助していきたいと思います。

まずは目の前の「運動会」。クラスでの競技の他に合同競技の「玉入れ」や「ダンス」など盛りだくさんです。「面白かった！」と言えるように「勝っても負けても」頑張っ
て欲しいと思います。久しぶりの広いグラウンドでの開催です。
お家の皆様もぜひ一緒に参加し、楽しんでご覧下さいませ。

<緑組>

日の暮れも早くなり、降園する子どもを見送りながら空を見上げると、済んだ空には星が瞬き始めていました。その合間を縫うように点滅する光が空を泳いでいきます。

「ロケットかな？」「飛行機だよ」「ヘリコプター？」...素早く消えていく光を追いかけた夕刻の空は、思いのほか広く大きく、そして澄んでいました。変化する環境やものと感情をのせ、記憶にとどめていく私たち。その感覚、鈍ってはいませんか？

子どもたちの知っているものごとを言葉にして引き出してくれる「なぞなぞ」を始めました。最近、問題を覚えて答えも「知っている！」ということも増えました。ある日「箒を逆さまにしたような、秋の草はなあに？：ススキ」という「なぞなぞ」を出題しました。答えが出なかったので、回答すると...子どもたちは「ススキ」を知りませんでした。9月10日、今年は早い「中秋の名月」でした。その週末に配布した手紙の中には大きな月の写真が掲載された子ども新聞もありました。翌週、「お月様見た？」と尋

ねると「見てない」と答える子どもは少なくありませんでした。月の満ち欠け、満月から三日月、新月...月が日々変化していくことを話すと、不思議そうに聴く子どももありました。この8月にアメリカ、フロリダ州のケネディ宇宙センターから、宇宙飛行士の月への着陸を目指す国際プロジェクト「アルテミス計画」で、大型ロケットが打ち上げられる予定でした。残念ながら延期されてしまいましたが...。また先日のエリザベス女王の逝去も大きなニュースでしたね。でも、どの話にも子どもたちはあまり関心が無いようでした。季節は変化し、子どもたちと歌を歌い、話を広げ、手の届く範囲で、目に見える範囲でその自然を社会の話を保育の中で取り入れてきました。なので...子どもたちの反応はちょっとショックだったのです。子どもたちと話をしていると、実にいろいろな話をしてくれます。家族の話・旅行話・歯医者話・好き嫌い話・テレビ話・野球話...身近なものとの関りが少ないとは感じません。ただ、日々を坦々と過ごしてはいないか？と感ずることがあるのです。五感を通して子どもたちが「感じ取るもの」の豊かさを考えたとき、私たち大人が子どもと共感する機会を逃しているのではないかな？とも思うのです。「雲の形が変わったね」「お日様の光が柔らかくなったね」「今日は、水が冷たいね」「ダンゴムシ、見かけないね」「朝顔も咲かなくなったね、あれ、これ種かな？」「自転車のシートが朝露で濡れているよ」...目の前を広げる、上を見あげる、少し手を伸ばして左右の景色切り取る...私たちは、自然の営みや周囲の環境に鈍感になっているのではないかな？と思うとちょっと怖くなってしまいます。感性の豊かさは、想像性を生み、人と人とを繋ぐコミュニケーションにも役立ちます。視野が広がれば、感化される場面も増えます。子どもたちの世界を広げる...それも身近な社会事象、自然事象を通して、まさに日常の五感に響く範囲で十分なのです。

運動会で組体操を再開させました。3学期のジャンピング参観の時に披露しようか？とも考えました。でも、「今」経験して欲しいと判断したのは「自分で感じる」ことに敏感であって欲しかったからです。ジャンピングを終え、意図して「今日のジャンピングはどうでしたか？」と尋ねました。「楽しかった！」と一様に答えます。「それだけ？」と尋ねると、一瞬にして黙ります。答えを探しているのです。それも「正解」を。答えは多様で、感想に正解なんてありません。無難な答えを手に入れると、その場は良くも悪くも上手に切り抜けることができる。これも成長の印と言えますが。ただ「誰かの真似」や「誰かと一緒である」こと以上に「自分の想い」に正直であって欲しいと思うのです。そのための「苦」を「難」を自分の手で乗り越える。それが「運動会」の目標のひとつでもあるのです。